

第2次恵那市地域計画

三郷地域自治区

【キャッチフレーズ】

自然と景観を守り 人と人が支えあうまち
～安心して住み続けられる三郷～

【地域の現状】

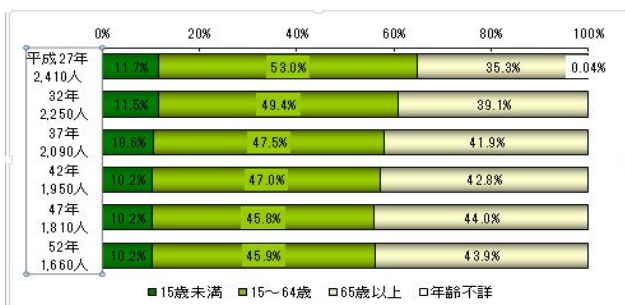
三郷町の人口は、かつて3,300人を超えていたが、平成27年国勢調査では2,410人、人口推計で令和7年には2,090人、令和17年には1,810人になり、高齢化率は、平成27年では35.3%だったのが令和12年には42.8%、令和17年には44.0%と予測されています。

急激な少子高齢化の進行、就労の場の不足などにより若者の流出、一人暮らしや夫婦のみの高齢者世帯の増加により、地域全体の活力低下が懸念されています。また、ライフスタイルやニーズが多様化し、地域内のつながりが希薄になりつつあります。

地域において課題を共有し、町民一人ひとりが身近なまちづくりを考え、それぞれの活動や団体・組織が有効にネットワーク化され、主体的に関わり合いを持つことにより、地域の魅力や個性を引き出すまちづくりに積極的に取り組んでいくことが求められています。また、まちづくりに対する理解や意識が十分に浸透していない面も見受けられます。

なお、最近の健康状況を国民健康保険特定健診結果から見ると、血糖値(ヘモグロビンA1c)の高い割合が市内で上位であり、BMI(肥満度)の基準値を超えている割合が市内平均と比較して高い状況となっているなど、健康への取り組みが課題となっています。

将来人口と年齢3区分別人口の推計



将来人口の推計 単位:人

	平成27年	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年
総人口	2,410	2,350	2,090	1,950	1,810	1,660
65歳以上	850	878	877	835	795	728
15～64歳	1,278	1,111	995	915	827	761
15歳未満	281	258	221	199	184	169

※高齢化率とは、65歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合のこと。

出典:恵那市将来人口推計結果(平成31年3月)

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

三郷町の美しい自然や景観は、ここで暮らす人びとが住み続け、それを守り育ててきた私たちの大切な宝です。この受け継がれてきた地域の宝をこれから先もみんなで活かして守り育てて、郷土を愛し、誇りに思う心を育み、文化や伝統を次世代に引き継いでいく必要があります。

少子高齢化により、一人暮らしや夫婦のみの高齢者世帯が増加する一方で、三世代同居世帯が減少するなど、家族の支える力の低下や地域における連帯意識が希薄化してきており、行政によるサービスだけでは十分な対応が困難になりつつあります。人口減少に歯止めをかけるためにも行政と地域とが役割分担しながら、子どもからお年寄りまで地域に暮らす人びとが安全に安心して住み続けられるまちづくりを進めていく必要があります。

周辺には、JR武並駅や中央自動車道恵那ICがあり、中心市街地に比較的近く、田舎ではあるが、車があれば比較的便利な地域です。また、中津川市にはリニア中央新幹線岐阜県駅や中部車両基地の建設の方針が公表されており、令和7年に東京―名古屋間の開業が予定されています。

この地の利を活かし、「住み続けたい」「帰ってきたい」「移り住みたい」と思える魅力あるまちづくりを進めていく必要があります。

地域みんなが課題に関心を持ち、まちづくりを自ら提案し、自ら参加して、お互いに助け合い、協力しながら三郷町の自治力の強化を目指します。

行政ではできない、地域だからできる「人と人との支えあい」により、地域に暮らすみんなが生涯健幸で生き活きと安全に安心して住み続けられ、訪れる人に感動を与え、移り住みたくなるまちづくりを目指していきます。

【計画の柱(基本目標)】

三郷町の10年後の将来像を思い描き、その実現に向けたまちづくりの方向性を、3本の「計画の柱」としてまとめ、9つの「施策の項目」を設定しました。

1. 地域の景観・歴史・伝統・文化を活かすまち

地域の自然、歴史、文化などを背景にして、永年にわたり、人びとの日常生活の営みの中で、守り、創り、育まれてきた景観、歴史、伝統、文化を活かしたまちづくり。

2. 地域でともに支えあうまち

安全安心で暮らしやすく、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで守り育てる。人と人同士がつながり支えあって、生涯を通じて生まれ育った地域で自立した生活ができるよう、健幸寿命の延伸に向け地域で支えるまちづくり。

3. 生き活きと住み続けたいまち

地域資源を活用して、人びとが住み続けたい、帰ってきたい、移り住みたいと思えるような魅力ある地域づくりを進め、地域で生き活きと暮らしていけるまちづくり。

【基本施策】

計画の柱1：地域の景観・歴史・伝統・文化を活かすまち

(1) 自然景観や農村景観の維持・再生

地域ぐるみで山や川などの自然が織りなす里山の景観やここで暮らす人びとの生活のなかで育まれてきた農村の景観を守る取り組みをします。

(2) 郷土を愛し、誇りに思う心を育む

自分の生まれ育った地域に誇りと愛着を持ち続けられる取り組みをします。

(3) 歴史・伝統・文化の伝承

地域において育まれてきた自然、歴史、遺跡、伝統、文化に加え、家庭と地域の行事、風習、食文化などを次の世代へ継承する取り組みをします。

計画の柱2：地域でともに支えあうまち

(1) 地域で支えあうまちづくり

だれもが住みなれた地域で、生涯健幸で安心して暮らし続けられるように地域で支えあう取り組みをします。

(2) 地域での子育て支援体制づくり

子育て中の親や子が気軽に集い、遊びや語り合いながら子育ての悩みを気軽に話し合え「三郷で子供を産みたい」、「三郷で子育てしたい」と思えるような取り組みをします。

(3) 安心して暮らせるまちづくり

だれもが住みなれた地域で、安全に安心して、夢と希望を持って暮らせる取り組みをします。

計画の柱3：生き活きと住み続けたいまち

(1) 人口減少対策の推進

若者が生活基盤を確立して、夢や希望を持って人生設計ができる環境づくりや町外からの人を受け入れる態勢の充実、人材の育成・活用や交流の拠点づくりをして、定住促進及び少子化対策の取り組みをします。

(2) 地域の自然や景観を活かした観光振興と地域ブランドの発掘

地域資源を活用した観光振興と、他地域との違いを図りながら、地域イメージを高め地域の付加価値を上げるブランド化の取り組みをします。

(3) 健康づくりの推進

赤ちゃんからお年寄りまで、だれもが健康で生き活きと元気に暮らし続けられる取り組みをします。

【地域間連携での取り組み】

連携する地域	計画の柱（基本目標）及び施策の項目
<ul style="list-style-type: none"> ☆三郷町 ☆武並町 	柱2：地域でともに支えあうまち （1）地域で支えあうまちづくり 柱1：地域が見守る福祉のまち （2）高齢者や体が不自由な方に優しいまち
取り組み内容	
◎住みなれた地域で安心して暮らし続けられる 高齢者や体の不自由な方、妊婦など交通弱者の日常生活における移動手段の確保や公共交通空白地域の解消。生活必需品を入手するための買物支援などに取り組みます。両地域が連携することにより、効率的で利用者にとって魅力のあるサービスが提供できます。	

連携する地域	計画の柱（基本目標）及び施策の項目
<ul style="list-style-type: none"> ☆三郷町 ☆武並町 	柱3：生き活きと住み続けたいまち （2）地域の自然や景観を活かした観光振興と地域ブランドの発掘 柱2：人が行き交う交流のまち （1）観光資源の有効活用
取り組み内容	
◎農村景観や地域資源を活かしたおもてなし 自然や景観などを求めて都会から農村を訪れる人達の疲れを癒し、心と体をリフレッシュさせる環境づくりに取り組みます。両地域が連携して、賑わいのあるまちづくりを推進します。	

連携する地域	計画の柱（基本目標）及び施策の項目
<ul style="list-style-type: none"> ☆三郷町 ☆武並町 	柱3：生き活きと住み続けたいまち （3）健康づくりの推進 柱1：地域が見守る福祉のまち （3）笑顔で住み続けられるまち
取り組み内容	
◎ここに住んでよかったと思えるまちづくり 赤ちゃんからお年寄りまで、だれもが健康でいきいきと安心して暮らせるまちづくりに取り組みます。両地域が連携して健康づくりやふれあいを楽しめるようなイベントなどを開催することにより、魅力ある生活圏を創ります。	